月刊関複

2017 September
No.30
9

東京中央会『組合まつり』（写真提供：早坂 淳氏　株式会社ケーヨー）

- 巻頭言㉘　向井　忍（キヤノンシステムアンドサポート）
- 我が社の業務⑨　ジェー・イー・シー
- PP 制度取得企業紹介　大昭工業写真
- 「組合まつり in TOKYO」に関複が出展
- 人工知能（AI）セミナーが好評
- 協賛会社 3 社が自社の製品を提案

関東複写センター協同組合

Canon

make it possible with canon

imagePRESS シリーズ最高の高画質で プリントビジネスを スマートに支援します。

カタログ、アルバム、同人誌、パッケージ・・・
プロダクションプリンターの成果物に
求められる品質は日々高くなっています。
imagePRESS C10000VP/C8000VPでは、
トナー、レーザースキャナー、スクリーンなどを改良することで、
imagePRESSシリーズ最高の高画質を実現しました。
さらに、レジ精度などの画像品質も向上し、
仕上がりにこだわるお客様のニーズにスマートにお応えします。

※オプションを含みます。

imagePRESS C10000VP/C8000VP

本体価格：2,500万円（税別）
連続プリント速度：100ppm
（カラー/モノクロ・A4ヨコ片面）

本体価格：1,500万円（税別）
連続プリント速度：80ppm
（カラー/モノクロ・A4ヨコ片面）

OFFICIAL SPONSOR

◎オンデマンドプリンター ホームページ
canon.jp/pod-printer

◎キヤノンお客様相談センター
プロダクション向け複合機
050-555-90053
受付時間 平日9:00～17:00（土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます。）

※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9626をご利用ください。※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

カタログは、canon.jp/catalogからダウンロードしていただくか、ハガキの場合は、住所、氏名、電話番号を明記の上、〒261-8711 千葉県千葉市美浜区中瀬1-7-2 キヤノンマーケティングジャパン（株）カタログ請求「imagePRESS」係までお送りください。※カタログ請求を通じてお客様より任意でご提供いただいた個人情報は、カタログ送付の目的のみに使用いたします。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

◆巻頭言28

「私のキヤノンライフ」

キヤノンシステムアンドサポート株式会社
向井　忍

「巻頭言」をお借りしてまずは自己紹介をさせていただきます。

私は1961年に山口県宇部市で生まれました。もともと親族一同鹿児島県出身で血筋は鹿児島という意識を持っています。18歳から青春時代の７年間を福岡で過ごしました。バブル経済に突入する入口の頃でしたので、何か大きな可能性を求めて25歳の時にある事業を始めましたが、残念ながら失敗し、26歳で現在の会社に就職しました。

現在の会社では広島を皮切りに仙台、広島、東京と異動しました。福岡、広島、仙台という代表的な地方都市に住みましたが地域性や人間性が随分違うものだなーと感じました。福岡は根っから明るく陽気な人が多く、ケンカが絶えないざわざわした楽しい町でした。

広島は広島カープに代表されるような質実剛健な地域性で、当時はまだ血生臭いやくざ抗争なども起こっており、怖い人も多かったと記憶しています。今では随分都会的な街に変身し、定年したら広島で過ごしたいなと思っている次第です。仙台は非常に印象的な場所でした。辛抱強く、寡黙な人が多いのですが、打ち解けると心から信頼できる人ばかりで「ほっこり」するような人間関係を築くことができました。いずれも楽しい思い出ばかりです。

少し仕事の話をさせていただきます。仙台転勤までの16年間は中小零細企業を中心とした営業部隊を担当していました。２度目の広島勤務からは中堅企業を担当することになり、顧客の規模が変わると営業の仕方が変わることを知らず随分戸惑いました。４年間の広島再勤務を終え、東京本社へ中堅企業担当の販推責任者として異動しました。全国の多くの拠点を訪問し、各地で酒を飲みかわし、くたくたになった２年間でした。

2009年から首都圏に中堅企業を担当する本部が作られ、その責任者をやることになりました。東京の中堅企業を担当し、たくさんのお客様を訪問しましたが、その質と量に圧倒されました。東京という世界でもまれな垂直都市の規模をまざまざと感じ、無限の可能性を感じた次第です。

また2011年からプロダクション商品の拡販を目的にプロダクション営業部が新設され担当本部に組み入れました。

複写業の方々とのお付き合いもこの時からで、キヤノンコピアのジアゾの時代から面々と続く長い歴史を初めて知りました。

複写業の皆様にとってキヤノンの製品が評価されていた時代、厳しかった時代とありましたが、何とか取引を続けていただき現在に至っています。

我々はこれからも業界を応援し、有益な情報をコンスタントに提供できるよう努力してまいりますので、変わらぬお付き合いをどうぞよろしくお願いいたします。

我が社の業務 ⑨ ㈱ジェー・イー・シー

取締役・デジタル部長　國井 洋一氏

得意先のパートナー企業として全面支援で対応を

㈱ジェー・イー・シー（川崎　達社長）は、水と環境の総合コンサルタント会社を大得意先にしており、オンデマンド出力、電子納品、名刺印刷、大判スキャニング、製本加工、設計補助などの事業でサポートしている。安定した受注があるため堅実経営ではあるが、近年、価格競争の影響を受け、業務の中には受注が減少しているものもある。そんな状況下、得意先のニーズを受けて、新たに「３Dスキャニング」と「ドローン」を使った事業に乗り出すことになった。取締役デジタル部長の國井洋一氏に新事業について話を伺った。

◆得意先の社員に向けて見学会を開催

同社は、１社の得意先からの受注が売上の大半を占めていることから、得意先のパートナー企業としてさまざまな業務でニーズに応えて、全面的なサポートを行っている。

「毎年、その得意先の社員さんに向けて当社で見学会を開催し、実際にデジタル印刷から製本までの全ての業務をお見せして、納品している商品がどのような工程を経て作られているのかを見てもらっています。見学会の目的は、制作工程の流れと当社の業務に取り組む姿勢を分かっていただくためです。見学会の後は懇親会も開催し親睦を深めています」と、國井取締役は語る。

このように得意先と強固な関係を保つことは、新たなビジネスに繋がる可能性がある。実際、今年９月からは３Dレーザースキャナーを導入し、処理場施設設備の点群モニタリング業務を始めることになった。「３Dスキャナーは非常に高額な装置ですが、新しい技術で得意先のためには必要なサービスであり、また将来性があると考え始めることにしました」とのこと。

◆３Dスキャナーとドローン事業に期待

処理場施設内に同スキャナーを設置し、３D撮影した画像データを３DCAD化する仕事になるが、施設内の配管の修理工事を行う際に、作業員が作業しやすくなるように事前に立体の高精度画像の情報を提供するサービスである。

また、来年からはドローンによる調査業務を開始する予定だ。得意先がメーカーと共同で管路・閉鎖的空間の点検・調査用ドローンを開発しており、それを使った業務を一手に引き受けることになっているという。このドローンは一般のドローンと違って下水道管の中を空中移動させるためのもので、特注で現在試作機を開発しているという。

このドローン事業では同社が実際に下水道管内を点検することになるので、ドローン操作を習得する必要がある。来年から事業を開始するために同社ではチームを立ち上げているが、國井取締役自らが先頭に立って操作習得のためにスクールに通って、このほど資格を取得した。

「３Dスキャナーとドローンの２つ事業を大きな柱にしていければと思っています」と、新事業に大いに期待している。

今回は、東京都品川区の大昭工業写真株式会社を紹介します

より一層信頼される企業風土を築くために

【会社名】大昭工業写真株式会社
【代表者】代表取締役　平田　正人
【住　所】東京都品川区西五反田６-14-13
【連絡先】TEL 03－3492－2408
FAX 03－3492－1227

PP認定に至った経緯

弊社は、創業以来官公庁をはじめ、民間企業様とお取引いただいており、約20年ぐらい前よりクライアント様がグローバルスタンダードに対応すべくISO9000、ISO14000など取得されるようになり、取引先（外注先）も評価の対象となるようになりました。

また、個別に機密保持契約を結ぶ事例が増し、あらためてお客様の大切な情報を取扱う責任の大きさを痛感するにいたりました。

そんな折、関東複写センター協同組合様よりPP（プライバシー・ポジション）認証制度のお話をいただき、2010年に取得させていただきました。

認証取得後の今後の取組みについて

連日企業の個人情報漏洩事例が報道され、規模に係わらず、企業が問われる社会的責任が日に日に大きくなっています。

コンプライアンスを遵守し、社員全員がより一層の危機感・緊張感を共有し、お客様により信頼される企業風土の構築を目指して参りたいと思っております。

大昭工業写真株式会社
代表取締役　平田　正人

「組合まつりin TOKYO」が盛大に開催

全国から88組合が大集結！　関複も出展

東京都中小企業団体中央会（大村功作会長）が主催する「組合まつり in TOKYO」（―中小企業の魅力発信！―）が、８月30日、東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催した。これには東京都や東京商工会議所など団体が後援した。また会場には、東京をはじめ全国から88組合の参加とともに関東複写センター協同組合（関複、斎藤隆正理事長）も出展した。

午前10時の開場に先立ってオープニングセレモニーが行われた。はじめにあいさつに立った大村会長は「東京は2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、私ども中央会は、これを機会に中小企業が少しでもビジネスに繋げられるよう２年前に『中小企業世界発信プロジェクト2020』を立ち上げました。今回の組合まつりはその一環として開催するもので、来場者はもとより参加組合同士でもビジネスチャンスにしていただきたい」と述べた。

続いて来賓あいさつに、東京都の川澄俊文副知事が小池百合子知事の代理であいさつを述べた。その後大村会長と来賓４氏でテープカットが行われ、１日だけの展示会がスタートした。

関複のブースはくらしのコーナーで出展、協賛会社の３社（キヤノンマーケティングジャパン、富士ゼロックス、リコージャパン）の協力で、複写業界が今提供できる商品事例などを早坂淳理事や森迫隆正専務理事らが来場者にアピールした。斎藤理事長や関複組合員が真夏のような暑さの中、応援に駆けつけた。

大村会長を中心にテープカット

会場ブースの準備に携わった早坂氏、黒井さん、森迫氏（左から）

会場風景

会場入り口パネル

富士ゼロックスがAI最新動向セミナー開く

テーマ「新たなビジネスモデル構築の可能性」

講演する小林氏

富士ゼロックスのグラフィックコミュニケーションサービス事業本部は、8月23日午後3時半から、東京・港区六本木ティーキューブ5階の同社「Document COPE Tokyo Patio C」で、〈人工知能（AI）最新動向セミナー〉を開いた。

セミナーの内容は『人工知能の活用による新たなビジネスモデル構築の可能性』（～富士ゼロックスにおける増力化／省力化のための人工知能の活用～）のテーマで富士ゼロックス・研究技術開発本部コミュニケーション技術研究所の小林健一研究主幹が講演した。

小林氏は、富士ゼロックスの保有するAIを活用した、ユーザーモデリング／推薦によるOne to Oneアクティブレポート、異業種情報統合分析によるサービス改善／離反防止、VOC（Voice of Customer）分析／SNS活用による顧客接点強化など図るための具体的事例を中心に、増力化および省力化の取り組みを紹介した。

同社では、AIの環境のこれからは、クラウドコンピューティングやセンサーネットワークの進展に伴い、コミュニケーションに関わる、テキスト、画像、動画など非構造化データ（Big Data）が大量に蓄積されてきた。これらの蓄積されてきたデータから、AIを活用して有用な情報を抽出・分析することにより、顧客のその先のユーザーまでも経営課題解決を支援するとし、今後も新しい取り組みを随時紹介していくとしている。

関心が高いテーマとあって会場は満席に

JBR第3回社員（オペレーター）セミナー

生産性向上のための Illustratorのデータ作成

講演した鷹野氏

情報ビジネスリコー会（JBR、細井武会長）は8月4日午後3時半から、東京・芝のリコージャパン本社事業所で、「JBR第42期第3回社員（オペレーター）セミナー」を開催した。

熱心に講演を聴く聴講者

今回は『Sync＆Liveで取り回す、生産性向上のためのIllustratorのデータ作成』のテーマでスイッチ社の鷹野雅弘社長が講演した。

鷹野氏は、クリエイティブ制作の現場では何度も繰り返す操作や、面倒で手間がかかる作業

がつきものと問題点を語った。だが、その問題点を解決することで、少しの短縮が“塵も積もれば…”となって時間短縮やコスト意識の面など生産性向上になる。それには、『修正しやすい』（Live＝ライブ）、『一括で更新できる』（Sync＝シンク）を駆使して“直し”に強いデータ作りには、クオリティアップのためのトライ＆エラーに不可欠と述べ、コスト意識、品質向上など事故回避の観点からワークフローを再構築すべきだと指摘した。

リコージャパンが「POD実感！セミナー」開く

テーマ「大成功チラシ」つくりのコツ伝授！

講演する山口氏

リコージャパンは８月25日午後３時半から、東京・芝浦の同社田町第２事業所プリンティングイノベーションセンター（PIC）で恒例の８月度『POD実感！セミナーin東京』を「情報をわかりやすく伝えるテクニックで、ビジネスが進化する！」のテーマで開催した。

今回は、「POPの学校」校長で山口茂デザイン事務所の山口茂社長が『“大成功チラシ”７つの法則と誰にでも分かり易く伝えるコツ』の演題で講演した。山口氏はコピーライターとしてメディア・ユニバーサルデザインを手掛けており、お客様のメリットを伝えるコトPOP，コトチラシの提唱者として活躍している。そのチラシ（POP）作成にインパクトを与えられるものをアピールできるよう、モノ〈商品〉情報をコト〈目的〉情報に伝えるコツを７つの法則（下記）で講義した。

会場は満席で盛況に

【興味を持ってもらえる“大繁盛チラシ”の７つの法則】①一瞬で〈目的〉がわかる、②〈メリット〉がイメージできる、③今すぐに〈行動〉したくなる、④〈説得力〉があり、〈信頼〉できる理由がある、⑤〈価格〉が明確である、⑥お店の〈顔〉、お客様の〈顔〉が見える、⑦〈お店への案内〉が丁寧である―と紹介したが、山口氏は②、③、⑥の３項目が重要なポイントだと語った。

山口氏はチラシ（POP）作成に、上記の７つの法則に沿った事例を紹介し、クライアントの先にあるお客様が何を求めているか、その制作には高齢者や外国人にも分かり易く目に留まるデザインが今後は必要だと訴えた。

キヤノンiPカレッジin品川を開く

「WEB受注印刷ビジネスにおける新たな可能性を探る」をテーマに

キヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ）は８月８日午後２時から、東京・品川のキヤノンSタワーで「キヤノンiPカレッジin品川」を開いた。

講演する岩邊氏

今回のテーマは『WEB受注印刷ビジネスにおける新たな可能性を探る』を２部形式で行った。

第１部は、船井総研総合研究所・ITメディアグループの岩邊久幸チームリーダーが、『印刷通販ビジネスの

捉え方・考え方』の演題で、低価格で短納期の印刷通販に負けないデザイン・技術・企画（営業）力で、価格を下げないで顧客を満足させる努力が重要だと強調した。

また岩邊氏は、2025年までの印刷業界は、①市場規模が４兆円台に、②印刷企業が現在の50%に、③印刷通販市場に個人事業主が参入増加、④海外資本の日本印刷市場に参加増加、⑤大手・中堅印刷会社の提携・合併が増加、⑥業際にこだわらない印刷会社が生き残る、⑦販売型・ファクトリー型印刷会社が生き残り、営業型の印刷会社が淘汰される―など予測した。

第２部は、日本アグフア・ゲバルトの兼田克

会場風景

史マネージャーが『AGFAが提唱するスマートワークフローとCanonデジタル印刷機の相互連携による導入効果』の演題で、同社のクラウド技術を融合「アポジークラウド」によりIT化・自動化した事例を紹介した。

コニカミノルタジャパン

「JETvarnishシリーズ世界導入400台記念セミナー」を開く

デジタル加飾の真価と印刷需要拡大のヒントをアピール

あいさつする荒井上席執行役員PPG事業本部長

コニカミノルタジャパンは８月３日午後２時から、東京・芝浦の浜松町ビルディング26階の同社本社で「JETvarnishシリーズ世界導入400台記念セミナー（～一瞬で伝わる究極の高付加価値“デジタル加飾”その真価と印刷需要拡大のヒントを徹底解説！～）」を開いた。

UVインクジェット方式でスポットニスコーティングや厚盛（３D）ニスコーティング、金や銀など箔押しまで版や型を作らずに、高級感のある印刷物が１枚から提供できる、フランスMGI Digital Technology社製のインクジェットスポットUVニスコーター「JETvarnishシリーズ」がこのほど世界導入400台を達成したことを受けて行われたもの。

会場は満席となった

セミナーでは企業ブランディングのプロによる基調講演、国内でいち早くデジタル加飾ビジネス取り組んだ島津印刷（新潟・新発田市）、ユーメディア（仙台市）、ミヤギパッケージ（沖縄）など先進企業３社によるパネルディスカッション、デジタル印刷機との親和性抜群の、JETvarnish３Dによるデジタル加飾印刷の最先端技術を体感できる実機デモンストレーション、などの３部構成でデジタル加飾の魅力をアピールした。

荒井純一上席執行役員PPG事業本部長がセミナー冒頭あいさつに立ち、「印刷ならではの訴求として“デジタル加飾”をコンセプトに今後提案していくとし、『共に印刷の未来を創る』を標榜し、印刷業界において印刷市場、ビジネスをもたらす大きなキーになるよう尽力して行きたい」と語った。

リコーのお役立ち情報⑬

“RICOH MP Wリーズ”のご紹介

使い勝手と安定稼動を追及し進化をとげたモノクロ広幅複合機 ”RICOH MP Wシリーズ”3ラインアップ

使い勝手と安定稼動を追及し進化をとげた、モノクロ広幅フラッグシップマシンの集大成！！
最新コントローラーの搭載による大幅な機能向上に加え、基本画質を向上。
フルカラースキャナーやクロス折りフォルダー対応に加え、多彩なアプリケーションもご用意。
お客様業務の効率化にお役立ちします。

RICOH MP W8140/W7100/W6700

- 充実の機能
- 安心の保守サービス
- レーザー方式・コンパクト設計
- 優れた操作性

※写真はRICOH MP W8140Rモデルです。

高生産性

RICOH MP W8140 シリーズ	RICOH MP W7100 シリーズ	RICOH MP W6700SP
A0タテ：**7枚/分**	A0タテ：**5枚/分**	A0タテ：**3.7枚/分**
A1ヨコ：**14枚/分**	A1ヨコ：**10枚/分**	A1ヨコ：**6.7枚/分**

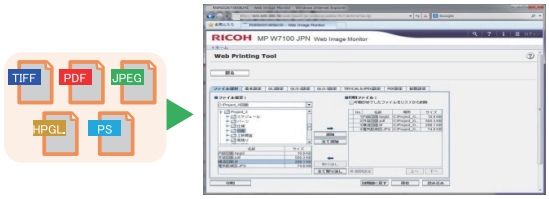
フルカラースキャナー対応

600dpi高画質フルカラー対応のネットワークスキャナーに対応。
さらに高圧縮PDF生成やスキャナー変倍機能などに対応することで、スキャニングデータの付加価値を高めます。

- 600dpiの高解像度
- 高圧縮PDF
- スキャナー変倍機能
- OCR変換オプション
- スキャンtoメディア
- パスワード付き暗号化PDF
- PDF/A対応
- TWAIN

一括出力ツール”Web Printing Tool”標準対応

Web Image Monitorの機能にファイル形式の異なる複数のデータを一括出力できるWeb Printing Tool機能を搭載しています。
Webブラウザを利用してファイルの出力指示が可能なため、パソコンに特別なアプリケーションのインストールは不要です。
ファイルをアプリケーションで立ち上げる手間が省け、業務の効率化にお役立ちします。



※.dwgや.dxfなど、CADのファイルフォーマットのままで一括出力はできません。

すぐれた操作性＆ペーパーハンドリング

高精細9.0インチWVGA 大型フルカラータッチパネルを採用。
より使いやすい操作部を実現。
また、好評の胴内排紙スタックによりフラットに用紙を受けることができ、省スペースですぐれたペーパーハンドリングをご提供します。

キヤノンＭＪの提案⑬

水性インクジェットでも、ラミネート加工なしで、最長6か月相当の屋外掲示を実現。「耐水ポスター合成紙（マット）」で手軽に屋外ポスター作成！

キヤノン大判プリンター「imagePROGRAF」シリーズの専用紙として、新たに屋外掲示用ポスター用紙**「耐水ポスター合成紙（マット）」**を発売しました。

「耐水ポスター合成紙（マット）」は、キヤノン独自の処方と純正インク（顔料）の組み合わせで、従来の水性インクジェット用紙※1より、屋外耐候性（耐水性、耐光性、耐ガス性）に優れた合成紙ベースの「屋外掲示が可能なポスター用紙」です。

従来の水性インクジェット用紙を屋外掲示するには、水濡れや直射日光から表面を保護するためのラミネートが必須でした。しかし、この「耐水ポスター合成紙（マット）」は水性インクジェット用紙でありながら、面倒なラミネート加工なしで、最長6か月相当の屋外掲示が可能です。

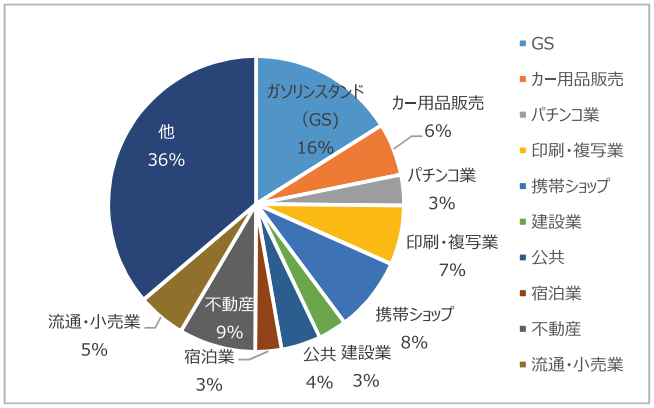
用紙の基材として合成紙を採用しているため、軽くしなやかで、折りや曲げ、引っ張りにも強く、水濡れで紙ヨレが発生することがありません。また、インクを吸収・受容するインク受容層に耐水性・耐光性に優れた接着成分を採用することで、屋外掲示による光や水の影響による色あせを抑制し、堅牢性に優れた鮮やかなポスターの作成が可能です。

用途拡大で販促効果を向上

「耐水ポスター合成紙（マット）」を使用すれば、雨ざらしで直射日光のあたる屋外に掲示するポスターだけでなく、生花店や鮮魚店など水濡れの可能性がある場所でのポスターも手軽に内製化ができます。

高画質プリントの屋外掲示による、集客力向上はもちろんのこと、用紙自体の耐候性により、表面保護のためのラミネート加工を不要にすることで、ポスター作成の工数削減、コストメリットなど、様々な効果が期待ができます。

多様な場所に掲示が可能な「耐水ポスター合成紙（マット）」を使用することで、販促の幅が広がります。



こんなお客様で利用中

ガソリンスタンドやカー用品販売業、不動産業など、屋外ポスター掲示の多いお客様、水濡れの可能性のあるお客様では、早速、「耐水ポスター合成紙（マット）」をご利用いただいています。

対応機種

PRO-2000/PRO-4000
PRO-6000S / PRO-4000S
iPF9400 / iPF8400 / iPF8300 / iPF6450 /
iPF6400 / iPF6350 / iPF6300
iPF9400S / iPF8400S / iPF8300S / iPF6400S /
iPF6300S
iPFiPF8400SE / iPF6400SE

富士ゼロックスの提案⑬

CVM Collaboration

顧客価値創造型営業コース（営業力強化）

社会環境や経済情勢が著しく変化する現在、貴社のお客様の抱える課題は日々刻々と変化をしています。情報産業の一翼を担う印刷会社様においては特にお客様の変化に対応した課題解決型営業の展開が求められています。本コースでは新たな視点で貴社のお客様を分析し、真の課題発見と営業スタイル変革を実践します。

顧客価値創造型営業コースの狙い

●お客様を見る目線を変える
お客様（C）、お客様のお客様（C）、お客様の競合（C）を見る

●お客様に関わる情報を徹底的に収集する
上記の３つのＣの相関を調べる

●ビジネスモデル図からお客様の課題を推察し、その合意を得る（お客様の儲けの構造を知る）
３つのＣの相関から課題を仮説として立て、提示する
一人で考えず、チームで作成する

●具体的な提案へ繋げる了承を得る
お客様から解決策の提示依頼を獲得する

期待効果

●お客様との会話の質と量が変わり、ビジネスパートナーとして認知される

●お客様の課題を体系的に理解できるので、次の商談が見え、商談が連鎖する

●お客様と共に課題解決の有効な手段を見いだすため、貴社の競合との差別化ができる

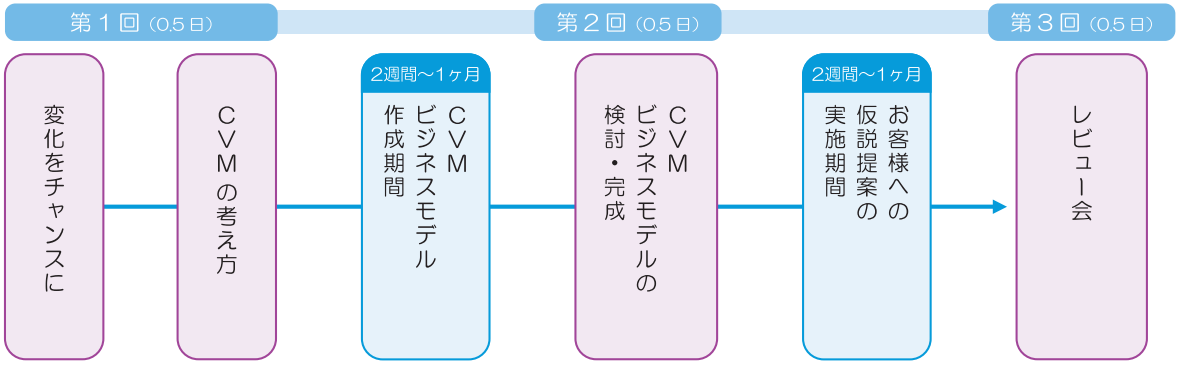
●成功例が蓄積され、企業としての営業力強化が図れる（営業スタイル・品質・社内協力体制）

＊お客様：Customer　＊お客様のお客様：Customer’s Customer　＊お客様の競合：Customer’s Competitor

CVM: Customer Value Marketing Management

コースの概要と流れ

第1回：市場環境の変化を理解し、営業スタイル変革の必要性を認識する
第2回：貴社のお客様のビジネスモデル図（3Cの相関）を作成発表し、討議とブラッシュアップを行う
第3回：貴社のお客様にビジネスモデル図を提示した結果を発表し、今後の展開を検討する



カリキュラム

第1回

第1部 変化をチャンスに
- オンデマンドパブリッシングの事例を通して、市場変化とその背景を理解し営業スタイル変革の必要性を理解する

第2部 CVM の考え方
- 顧客価値創造型営業（CVM 活用営業）への展開プログラムの理解
- 業者からパートナーへの格上げ
- 効果とビジネスモデル図作成手順の理解

2週間～1ケ月（貴社にて実際の重点顧客で CVM ビジネスモデル図作成）

第2回

第3部 CVM ビジネスモデル図検討と完成
- チーム別のビジネスモデル図の発表
- 全員で検討と討議
- ビジネスモデル図のブラッシュアップと完成

2週間～1ケ月（お客様への仮説提案の実施）

第3回

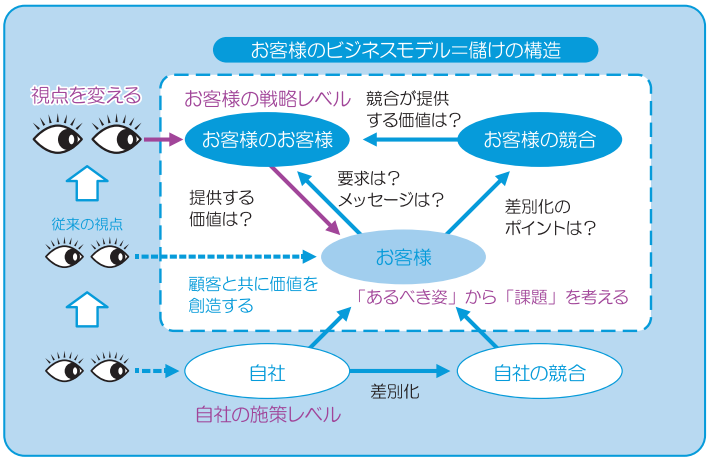
第4部 レビュー
- お客様への提案実施後の成果・課題のまとめと討議
- CVM をベースとした活動実施計画への展開

コースのポイント

●視点を変えて、お客様の戦略レベルの施策を考える
3C の情報を徹底的に収集する
お客様のビジネスモデル図を作成する

●グループ（チーム）討議で考えをまとめる
営業、制作等部門を超えて協力し作成する

●ビジネスモデル図をお客様へ提示し、反応を見て、次のステップを考える
良かった点、反省点を討議し、次のステップへ繋げる



富士ゼロックス株式会社
グラフィックコミュニケーションサービス事業本部　国内営業統括　営業推進部　VIP 推進グループ
〒106-0032　港区六本木 3-1-1 六本木ティーキューブ　Tel 03-3584-3288
http://www.fujixerox.co.jp/

Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
本書の内容は 2017年4月現在のものです。PSM-17086

労働問題Q＆A（28）

株式会社コンサルティング・オフィス

代表取締役
神田幸男
（中小企業診断士）

Q　休日出勤の代休申請について、許可した後に業務理由で変更させることができるか

社員が休日出勤した場合、1ヵ月の範囲内で代休を付与しています。代休日は、本人の希望を申請させ、上司が許可する方法をとっています。ところで、いったん許可した代休日について、その後に所属部署の業務が忙しくなることが判明したことを理由に、他の日に変更させることができるのでしょうか。

A　代休とは、一般に労働者が休日出勤などをした場合に、その代償措置として、恩恵的に、事後における業務の閑散な時期あるいわ労働者本人が希望する日の労働義務を免除するものであり、いわば無給の休暇と解されています。

したがって、代休を取得した場合は、代休取得日の賃金を差し引くことができますが、これにより、休日出勤などの事実が消えるわけではありません。

代休は、労働基準法上、必ず与えなければならないものではなく、代休を付与する場合の運用などは、労働協約や就業規則の定め、あるいは労使慣行によって取り扱うことが可能です。

そのため、お尋ねのケースについても、代休の取得に関し、原則として、労働者が希望する日に取得させることを前提に、業務の都合により、所属長が代休取得を許可した後も他の日に変更する旨の就業規則などの定めがあれば、代休取得日を変更することが可能となります。

お尋ねのケースは、代休に関する規定や労使慣行などは分かりませんが、規定において、例えば、「代休は労働者が希望する日を申請させ、所属長が許可する」旨の定めがあるだけで、今まで、代休取得を許可した後は、業務の都合により、取得日を他の日に変更したことがない場合は、代休取得の許可後はそれを変更しないという労使慣行が成立していると考えられるため、いったん許可した代休取得日を変更することはできないでしょう。

一方、規定に「代休取得の許可後も、業務の都合により、取得日を他の日に変更することがある」旨の規定があり、今までは、たまたま業務の都合により変更したことがなかったような場合であれば、いったん許可した休日取得日を変更することが可能といえましょう。

ただし、規定に、「代休取得の許可後も、業務の都合により、取得日を他の日に変更することがある」旨の規定がある場合も、希望日に代休の取得ではなく、年次有給休暇の取得を請求した場合には状況が変わってきます。

労働者から年次有給休暇の請求があった場合、使用者は、労働者の請求した時季に年次有給休暇を付与することが、事業の正常な運営を妨げる場合でない限り、その取得時季を変更することはできないからです。

この「事業の正常な運営を妨げる場合」については、一般的には、当該事業場を基準として、事業の規模、内容、当該労働者の作業の内容、性質、代替要因の配置の難易などを考慮して客観的に判断すべきものとされ、使用者が、恣意的に判断すべきものではないとされています。

お尋ねのように、所属部署がたまたま忙しいからといって、年次有給休暇の時季変更権を行使することはできませんので、仮に、年次有給休暇を請求した場合には、その日に年次有給休暇を取得させなければなりません。

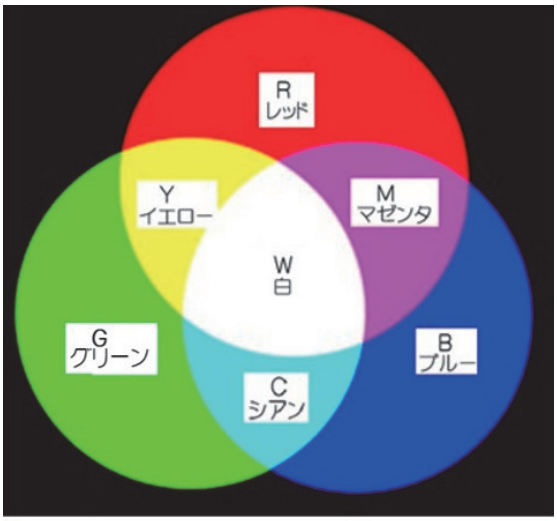
複写を考える㉝　（複写業を中心とする　複写の歴史）

細井　大建

光の三原色 加法混色(RGB)と 色材の 3 原色 減法混色(CMY)+ K

複写やプリントの世界では、現在ディスプレイなど、光の三原色で作成された画像を色材の 3 原色＋黒で紙などへ印刷あるいは複写することになります。

ディスプレイ上での色表現は光の三原色(RGB) 加法混色 (additive mixture)です。



光の三原色　加法混色　　Fig　75

赤　レッド　　[R]＝ 700.0 nm
緑　グリーン [G]＝ 546.1 nm
青　ブルー　 [B]＝ 435.8 nm

3 色が混ざれば明るくなり白に近づき、光が当たらない部分は黒色のままです。

3つ全てのカラーを組合せると白となります。

カラーテレビやディスプレイ、スキャナ、舞台照明などが代表的なものです。

また、2つの基本カラーを重ねると、減法混合の基本色のカラーを作成することになります。

赤＋緑＝イエロー　　緑＋青＝シアン　　青＋赤＝マゼンタ

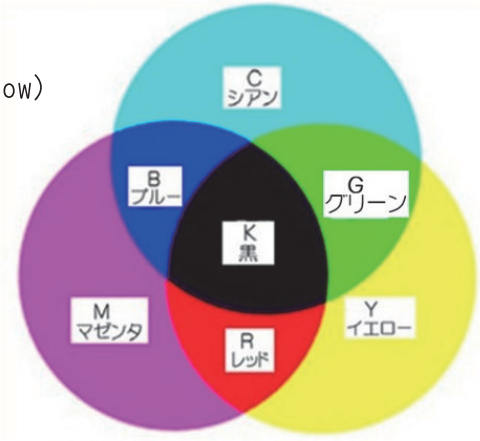
色材の 3 原色 減法混色(CMY)+ K

CMYで色を伝える減法混色複写やプリントの世界では、色を伝えるのに主にCMYKで色を伝えます。

CMYK はシアン(Cyan) マゼンタ(Magenta)イエロー(Yellow)の頭文字で、これらは混ぜれば混ぜるほど色が暗くなり、理論上は黒色に近づいていくため『減法混色』と言われます。 残りの K は黒ですが、墨といってもいいでしょう。

Kを日本語の黒(KURO) の頭文字いうのは、日本だけに通じる冗談です。

よく言われるもう一つの K の説明は「Black」、末尾の「K」を表すというのも俗説です。



色材の三原色　減法混色　FIG 76

『月刊関複』表紙掲載写真ご提供のお願い

月刊『関複』では毎月、表紙の掲載写真を理事の皆様の協力で投稿頂いております。今後は会員同士のコミュニケーションも含め多くの会員皆様からの投稿をお願いしたいと思います。

題　　材：フリー
撮影機材：一眼レフ～スマホ全て可能
※タイトル又は簡単な説明を 30 文字程度付けて下さい
送 付 先：メールにて以下へ送付して下さい
kjun@keyo.co.jp
※写真は横長タイプを推奨します

■今月号の掲載写真

東京中央会『組合まつり』
早坂 淳氏（株式会社ケーヨー）

8 月号：早坂 淳氏
（株式会社ケーヨー）
Kodak INSTAMATIC camera 1873 年製

7 月号：早坂 淳氏
（株式会社ケーヨー）
女優 月宮百合子

6 月号：早坂 淳氏
（株式会社ケーヨー）
文京区「金魚坂」の金魚屋さん

関東複写センター協同組合月刊誌
月刊関複 第 30 号
平成 29 年 9 月 1 日発行

購読料／年間購読 6,000 円（消費税・送料込む）
1 部 500 円（税込み・送料別）

編集発行人：**関東複写センター協同組合**
広報企画部 月刊関複編集委員会

発 行 所：**関東複写センター協同組合**
住 所 〒 113-0033
文京区本郷 4-24-5 春日ビル 7F
ＴＥＬ 03-3815-4338
ＦＡＸ 03-3815-4357
Ｅメール info@kfcc.or.jp
ＵＲＬ http://www.kfcc.or.jp

印 刷 所：**株式会社ケーヨー**

KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

真のプロダクション印刷システム

- 高品質で多彩な印刷物の提供
- 高水準の画像品質を安定供給
- マシンの生産稼働率向上
- スキルレスオペレーション
- 合理的な出力環境の構築
- 印刷物の付加価値向上に寄与

新開発のインテリジェントクオリティオプティマイザー

印刷生産機としての実稼働率の向上、より高い品質の印刷物をより確実に、安定して供給。そしてそれらをスキルレスでのオペレーションで実現する。プロダクション印刷システムの基本性能向上に拘った真の生産機、それが、AccurioPress C6100シリーズです。

AccurioPress C6100/C6085

- 色管理・表裏見当調整を自動化
- 用紙厚によらず毎分100枚※1の高速出力
- 受注幅を拡大する400g/㎡の厚紙対応力
- 独自技術を駆使した高画質と色安定性
- サービスの多様化を推進するフィニッシャー群

※1：C6100にて、A4ヨコ・52～400g/㎡紙時

＊写真はC6100にオプションを装着したものです。

コニカミノルタ ジャパン株式会社 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1

●商品に関するお問い合わせは 0120-805039 受付時間／9:00～12:00・13:00～17:00（土、日、祝日を除く）

http://www.konicaminolta.jp

Paper and Goods

デジタル･オンデマンド用紙 プリンタ用フィルム･クロス･ ラベル用紙を購入するなら・・・

Paper and Goods.com

日本紙パルプ商事（株）が運営する、豊富な品揃え！便利！リーズナブル！なオンラインショップ

テスト用サンプルご用意致します。
用紙選定にお悩みの方、別途請求（掛売り）
でのお取引もご相談ください。

ペーパーアンドグッズ　検索

写真（右２枚）は合成紙【ユポ ®】の使用イメージです。

〈取扱商品〉
- 水性インクジェット紙・フィルム・合成紙・和紙（ロール / カット判）
- 溶剤インクジェット紙・フィルム・合成紙・和紙（ロール）
- インクジェット紙粘着・自己吸着品（ロール / カット紙）
- オンデマンド（カラーレーザー）紙・フィルム・合成紙・和紙
- 名刺用紙、PPC 用紙
- オンデマンド紙粘着・自己吸着・静電気接着品（カット判）
- A-one ラベル全種類
- ラミネートフィルム、サイン・ディスプレイ資材各種

Paper and Goods

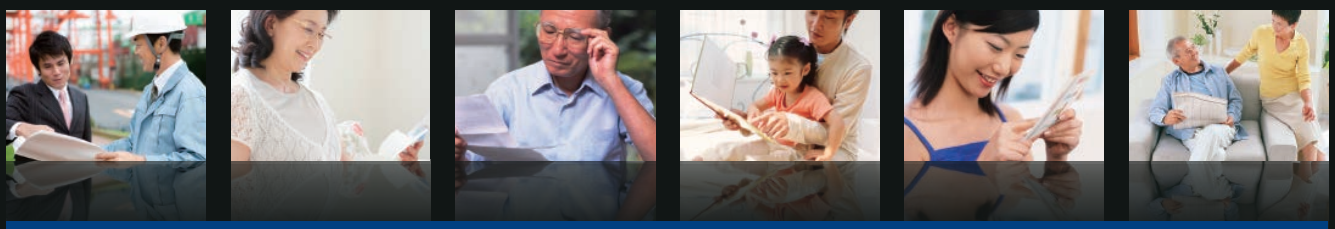
http://www.paperandgoods.com/shop/
E-MAIL　paperandgoods@kamipa.co.jp
TEL 03-5548-4276　FAX 03-5548-4277
コンビニ･郵便局等でお支払いの【GMO後払い】もご利用できます。

電話受付時間 9:00 ～ 17:00
土日祝日は休業となります。
ご注文はホームページよりお願い致します。
（FAX 注文のご相談も承ります）

運営：日本紙パルプ商事株式会社
特殊用紙部
〒104-8656 東京都中央区勝どき 3-12-1
フォアフロントタワー

FUJI xerox

デジタル・プリンティングの新たなステージへ。



オンデマンド印刷による新たな価値の創造へ

「一人ひとり」に応えるパワーを

消費者ニーズが急速に変化し多様化する中、一人ひとりと親密なコミュニケーションをとることができるオンデマンド印刷が大きな注目を集めています。新商品Color 1000 Pressは、より豊かな高画質プリントを実現する新技術や、薄紙から厚紙までの幅広い用紙対応により、高級カタログやラベル・パッケージといった、より広範囲なマーケティング・アプリケーションのオンデマンド対応を可能にしました。バリアブルプリンティングによる印刷物のカストマイズで、一人ひとりの心をしっかりつかむ、消費者向けのパーソナルコンテンツプリントがこれからのビジネスを拓きます。

Color 1000 Press

富士ゼロックス株式会社

http://www.fujixerox.co.jp/

富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは「お客様相談センター」へ。

0120-27-4100〈受付時間〉9:00～12:00、13:00～17:00(土、日、祝除く)

※XEROX、およびそのロゴと"コネクティング・シンボル"のマークは米国ゼロックス社の登録商標です。

RICOH
imagine. change.

ようこそ、可能性。

商用印刷や企業内印刷の最前線では、あらゆるシーンに可能性がひそんでいます。
プロの現場の期待に応えるのは、さらなる高品質と用紙対応力を磨きあげた RICOH Pro C5200S シリーズ。
この 1 台から、新たな付加価値を生み出すステージが始まります。

RICOH Pro C5210s/C5200s

www.ricoh.co.jp/pp/pod/

※写真はRICOH Pro C5210S にオプションを装着したものです。

プロ、体感。 RICOH Printing Innovation Center ショールームスペース
RICOH Pro をはじめ、プロダクション プリンティング ビジネスの新たなソリューションをご覧いただけます。また DTP セミナーも定期的に開催中。
お問い合わせ：050-3534-2121 ※ご利用は予約制となっております。詳細につきましては、担当営業または販売会社までお問い合わせください。

この広告は、リコーが提供する新しいクラウドサービスである RICOH Clickable Paper サービス®に対応しています。
＊ iPhone/iPad/Android™ アプリケーション『RICOH CP Clicker』（無料）をダウンロードし、広告を撮影（クリック）すると、商品のスペシャルサイトなどインターネット上の関連情報をご覧いただけます。

株式会社リコー　〒104-8222 東京都中央区銀座8-13-1
リコージャパン株式会社　〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2

※iPhone、iPadはApple Inc.の商標です。※iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。※AndroidはGoogle Inc.の商標です。